

| | | | | |
|--------|-----|----------------------------------|--------|---------------------|
| 総合計画体系 | 政策名 | Ⅱ 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 《定住環境》 | 施策主管課 | 建設事業課 |
| | | | 施策統括課長 | 森田 一 |
| | 施策名 | 8 高速・広域交通網の整備 | 関係課 | 業務管理課, 都市建築課, 事業管理課 |

1. 施策の目的と指標

| 目的 | ①対象(誰、何を対象としているのか) | | 対象指標 | 単位 | 区分 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|----|-----------------------|--|----------------------------------|---------------------|----------|---------------|------------------|------------------|------------------|---------------|---------------|
| | | A) 高速道路利用者 B) 広域道路利用者 | A | 高速道路利用者数 | 台/日 | 実績 見込 | 2,100 5,600 | 5,600 3,400 | 3,400 3,800 | 3,800 | 6,700 |
| | | B | 主要地方道・国道利用者数 | 台/日 | 実績 見込 | 30,384・21,024 | 31,062・21,048 | 32,082・19,657 | | | |
| | | C | | | 実績 見込 | | | 30,100・13,000 | 30,100・13,000 | 30,000・13,000 | 30,000・13,000 |
| 目的 | ②意図(どのような状態にするのか) | | 成果指標 | 単位 | 区分 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
| | | 市外主要都市と雲南市を安全で迅速に移動できるようにする。 | A | 主要都市(松江市・広島市)への所要時間 | 分 | 実績 目標 | 30・180 30・180 | 30・180 30・175 | 30・170 30・175 | 30・140 | 30・140 |
| | | B | 高速道路整備率(三刀屋木次IC～三次JCT間) | % | 実績 目標 | 61.0 (61) | 64.0 (64) | 78.0 78.0 | 100 | 100 | 100 |
| | | C | 国道54号三刀屋拡幅事業の整備率(三刀屋中前交差点～里方交差点) | % | 実績 目標 | 17.0 (17) | 29.3 (29.3) | 29.3 29.3 | 29.3 | 29.3 | 41.5 |
| | | D | 県道(主要地方道)の改良率 | % | 実績 目標 | 75.1 (75) | 75.4 (75.5) | 80.2 76.0 | 76.5 | 77.0 | 77.5 |
| | 成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由) | A) B) 市外主要都市と雲南市を安全で迅速に移動できるかどうかは、主要都市(広島市や松江市など県庁所在地)までの所要時間で判断でき、高速道路の整備状況も大きな要素になると考えた。 C) D) 国道54号の拡幅改良、及び県道(主要地方道)の改良が進めば、市外主要都市との安全で迅速な移動が可能になると考えた。 | | | | | | | | | |
| | 成果指標の測定企画(実績値の把握方法) | A) NEXCO西日本、国交省で把握 B) 国交省で把握(事業費ベース) C) 国交省で把握(供用開始延長) D) 島根県「道路等の現況調査」 | | | | | | | | | |
| | 目標設定とその根拠(基本計画策定時) | A) 尾道松江線は完成年次が示されたことから、国・県に対し必要な予算確保による計画の確実な履行を求め、目標値及び成行値は供用開始による時間短縮を見込んで設定する。 B) A)と同様に計画の履行を求め、目標値及び成行値は国の示した計画とする。 C) 国・県に対し必要な予算確保による計画の履行を求め、国の計画による成行値に対し、里方交差点まではH26年度までに完成させることを目標とした。 D) 成行値は、現状の県の整備状況から予測する。目標値は、県に対して予算拡充による早期整備を強く要望し、松江木次線、安来木次線、出雲三刀屋線、大東出雲線の改良進捗率の伸びが期待できることから、毎年0.5ポイントの向上とする。 | | | | | | | | | |

2. 基本事業の目的と指標

| 基本事業名 | 対象 | 意図 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|--------------|----------|----------------------|-------------|----|----|--------------|--------------|--------------|------|------|------|
| ① 国道・県道の整備促進 | 国道・県道利用者 | 安全・迅速に国道・県道を利用してもらう。 | 県道改良率・国道改良率 | % | 実績 | 75.1 17.0 | 75.4 29.3 | 80.2 29.3 | | | |
| ② 高速道路の整備促進 | 高速道路利用者 | 安全・迅速に高速道路を利用してもらう。 | 高速道路整備率 | % | 実績 | 61.0 | 64.0 | 78.0 | | | |
| ③ | | | | | 実績 | | | | | | |
| ④ | | | | | 実績 | | | | | | |
| ⑤ | | | | | 実績 | | | | | | |

3. 施策の役割分担と状況変化

| | 住民(事業所、地域、団体)の役割 | 行政(市、県、国)の役割 |
|--------|---|--|
| ① 役割分担 | ●整備事業が円滑に進捗するよう、用地買収・補償等への協力に努める。 ●地域に設置した工事委員会、又は期成同盟会により、関係機関との連絡、調整を行う。 | ●国・県は、住民理解を得ながら事業を実施していく。 ●市は、国・県及び地域との連絡、調整を担い、住民説明会などを通じて住民理解を得ながら事業実施できるよう努める。 |
| ② 状況変化 | A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○高速道路無料区間の供用開始に伴い高速道路利用者は増加する一方、国道・主要地方道の交通量は減少が予想される。 ○東日本大震災の影響により、公共事業費の削減や地域経済の減退が懸念される。 | B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○高速道路無料区間の供用開始に伴い、利便性の向上が図られた一方、国道54号沿線の経済の衰退を危惧し、その対策を求める意見が多く寄せられている。 ○東日本大震災の影響により、地方の道路整備が遅れないようにしたいという意見が多数ある。 |

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

| | |
|---|--|
| 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準) | |
| <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 | 背景・要因 ○主要地方道の改良率は、雲南市80.2%に対し、松江市86.7%、出雲市79.7%、大田市94.3%、浜田市85.9%、江津市53.7%、益田市62.5%、安来市83.5%となっており、他市に比べやや低い水準となっている。○高速道路の整備率では、山陰道が県内46%であるのに対し、雲南市管内はH24年度に全線が供用開始される。 このことから、高速・広域交通網全般で見ると、高速道路が整備されていることから、他市比較するとやや高い水準と判断する。 |

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

| | |
|---|--|
| 時系列での比較(成果水準の推移) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 成果がかなり向上した □ 成果がどちらかと言えば向上した □ 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) □ 成果がどちらかと言えば低下した □ 成果がかなり低下した | 背景・要因 ○ 高速道路は、吉田掛合ICー三刀屋木次IC間が開通し、通行者の利便性向上に大きな成果があがった。 ○ 国道54号拡幅事業は、第3期工事に計画的に取り組んだ。 ○ 主要地方道は、着手されている工区が着実に事業進捗している。 |

5. 施策の振り返り評価

| | |
|--|--|
| 施策の目標達成度 (前年度の成果指標値に対する実績値の達成度) | |
| <ul style="list-style-type: none"> □ 目標値より高い実績だった ■ 目標値どおりの実績値だった □ 目標値より低い実績値だった | 背景・要因 ○ 国・県に対して事業計画の確実な履行を要望してきたことにより、概ね目標とした事業進捗が図られた。 ○ 期成同盟会においても、国・県に確実な事業実施を求めてきたことが成果につながった。 |

| 基本事業 | 取り組んだ事務事業の総括 (事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業) |
|--------------|---|
| ① 国道・県道の整備促進 | ・国道54号三刀屋拡幅事業については、第3工区のH27年度完了を目指し、工事を着実に進捗させていくために国・県・市で連携して整備計画を策定した。その計画全般は地元の合意を得ることができた。 |
| ② 高速道路の整備促進 | ・高速道路は、H23年度末に吉田掛合ICまで開通し、記念式典及び記念イベントを開催した。(約1,400人の参加者があった。) ・雲南市地域活性化施設の開設に向けて、地元参画者との協議等を踏まえ、実施計画に取り組んだ。 |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

| 区分 | 今後の課題 | 次年度の方針(案) |
|------|---|--|
| 施策 | ○ 早期完成には、国、県等関係機関へ引き続き要望していく必要がある。 ○ 事業実施にあたっては、関係機関と連携し、地元住民の理解と協力を得る必要がある。 | ○ 国、県等関係機関に働きかけ、早期完成に向け、積極的に取り組んでいく。 |
| 基本事業 | ① 国道・県道の整備促進 | ○ 地元へ積極的に説明会を実施し、理解を得ながら事業を推進していく。○ 国道54号拡幅事業に合わせた周辺の道路網の整備を図っていく。○ 既存路線の適正な維持管理に向け、国・県に働きかけていく。 |
| | ② 高速道路の整備促進 | ○ 整備計画が着実に実施されていくこと。 ○ 高速道路の全線開通に向けて、期成同盟会による要望活動を続けていく。 |
| | ③ | |
| | ④ | |
| | ⑤ | |